

信楽は、瀬戸、越前、常滑、丹波、備前と並んで「日本六古窯」と呼ばれる日本有数のやきもの産地です。六古窯は、日本古来の技術を継承する、世界に誇るやきもの産地で、今も連綿とやきものづくりの伝統を継承しています。そんな六古窯の日本遺産のストーリーが「ぎっと恋する六古窯」日本生まれ日本育ちのやきもの産地」です。「丘陵地に残る大小様々の窯跡や工房へ続く細い坂道が迷路のように入り組んでいる。恋しい人を探すように煙突の煙を目印に陶片や窯道具を利用した塀沿いに進めば、『わび・さび』の世界へと自然と誘い込まれ、時空を超えてセピア調の日本の原風景に出会うことができる」と日本遺産の概要に書かれた情景を信楽ではそのまま目にすることができます。

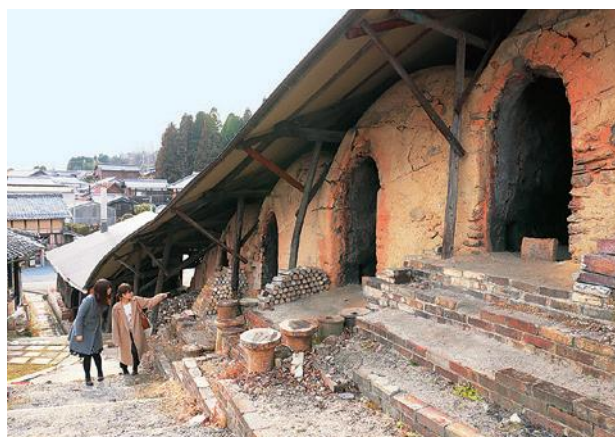
信楽焼は、土味を生かした素朴な風合いが最大の魅力で、火色・焦げ（灰被り）・自然釉に特徴があります。縁起物の狸の置物も信楽焼のシンボルの一つです。市内には、県立陶芸の森や信楽伝統産業会館という信楽焼のミュージアムがあり、秋の「信楽陶器まつり」には全国から多くのやきものファンが訪れます。全国ブランドとして知名度の高い信楽焼ですが、市ではより一層の普及促進をめざして「甲賀市甲賀の茶及び甲賀の地酒を信楽焼の器でもてなす条例（通称・おもてなし条例）」を制定するなど、さまざまな取組をしています。



信楽陶器総合展



窯元散策路は、窯元が点在する懐かしいたたずまいの坂道、登り窯、あちらこちらに無造作に積まれた陶器など陶都ならではの風情が堪能できる回遊ルートで、陶板の道しるべや案内板が整備されています。



登り窯はやきもの里・信楽を象徴するものの一つです。今でも登り窯は現役で、年に数回火入れが行われています。



伝統的なものから生活雑器まで多種多様なのが信楽焼の魅力

